令和２年度

学校だより

京都市立醍醐中学校

第３号

令和２年６月１日

授業再開

４月１０日（金）から新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐために休校措置が続きました。休校期間が２か月近くを数えました（授業日数としては３１日間）。これほど休校が続いたのは今までなかったことで，生徒の皆さんや保護者の皆様，教職員の戸惑いも大きかったことでしょう。

５月１８日（月）からは希望する生徒が登校して学習相談や面談を行ってきましたが，いよいよ６月１日（月）から授業が再開します。最初の２週間は，「ウォーミングアップ期間」として，隔日登校や分散登校を実施します。そして，６月１５日（月）から通常の学校生活に戻し，部活動も再開します。授業が再開してからも下記の感染予防対策を進めていきます。ご家庭でもご協力ください。

- **健康観察の実施（登校前に自宅での検温をお願いします。）**
- **授業中や登下校時のマスク着用**
- **登校時や休憩時間，昼食前のこまめな手洗いの徹底**
- **多くの生徒が手を触れる部分の毎日の消毒徹底（ドアノブ，手すり，スイッチなど）**
- **座席配置の工夫や換気の徹底など「密閉，密集，密接」の回避**

休校が続く中で，校内の装いも満開の桜から鮮やかな新緑へと大きく変わりました。しかし，生徒の声が響かない学校がこれほど寂しいものかと感じています。学校の主役はやはり生徒なのだと改めて痛感します。また，何気ない日常の大切さも認識しました。１日も早く，日常の学校生活に戻れることを願います。

生徒の皆さんや保護者の皆様の不安や心配が大きくなっていると感じます。とりわけ３年生の不安や心配が大きいと感じます。教職員が力を合わせて教育活動を進めていきますので，困りごとなどがありましたら学校へお知らせください。

時間を大切に（６月１０日は「時の記念日」です）

先日，中国文学者の井波律子さんが亡くなられたという訃報を新聞で見ました。非常に残念です。井波律子さんといえば以前，新聞で読んだ随筆が思い出されます。次のような随筆でした。

「古い中国の物語である『爛柯説話（らんかせつわ）』」という物語があります。内容は次のようなものです。ある樵（きこり）が山に木を伐りに出かけたのですが，途中で道に迷います。道に迷った山中の洞窟で囲碁を楽しむ２人の童子（実は仙人）に出会います。樵は，手に持っていた斧を地面において熱心に囲碁を見物しますが，やがて我にかえり，地面に置いた斧の柄がすっかり朽ちて使い物にならないことに気づきます。樵は，何とか山を下りて村に帰ったのですが，知らない顔ばかりであせってしまいます。実は，山中の洞窟にいた短い間に，下界（村）では長い歳月が経過していたのです。樵にとっての一瞬が人間世界の何十年にあたるという，ゆるやかに時間が流れる仙人の世界に迷い込んだのです。ですから樵があせってしまうのも無理がありません。」

この随筆を読んで，時間の使い方について考えさせられました。休校措置が取られてすでに２か月近くが過ぎました。時の流れの速さを感じます。私が子どもの頃は，もっとゆっくり時が流れていたように思い出されますが，年齢を重ねるごとに時の流れが速くなっているように思います。

時間は皆に平等に与えられています。しかし，時間の使い方は各々に任せられています。慌ただしく過ぎ去っていく時間ですが，私自身も無駄に使ってはいないかを改めて考えさせられました。皆さんも今一度，時間の使い方を見直して，時間を大切にしてほしいものです。